

横 浜 開 港 資 料 館 開 館 40 周 年 記 念 企 画 展 示

「七つの海を越えて 開国前後の日本とイギリス」開催のお知らせ



ロンドンの港のにぎわいを空想もまじえて描いた錦絵「英吉利西龍道大港」歌川広重(2代)画 文久2年(1862)

アヘン戦争～明治維新までの日英関係をわかりやすく紹介！

近年、日本とイギリスは政治・経済・安全保障など広い分野で関係を強化し、「日英同盟以来の親密な関係」を構築しています。

昭和56年(1981)6月2日に旧イギリス総領事館の敷地に開館した当館は、日英関係のつながりを示す歴史資料を積極的に収集してきました。開館40周年を迎える本年、江戸時代の日英の歴史的關係を2期に分けて探る、本格的な展示を開催します。

第Ⅱ期では、アヘン戦争(1840～42)年から、日英修好通商条約の締結(1858年・「開国」)をへて明治維新(1868)にいたる、約30年間にわたる日本とイギリスの歴史的關係をわかりやすく解説します。

会 期 令和3年7月17日(土)～11月7日(日)
 開館時間 午前9時30分～午後5時(券売は午後4時30分まで)
 観 覧 料 一般300円、小・中学生・横浜市内在住65歳以上150円
 休 館 日 月曜日(ただし、8月9日、9月20日は開館)、8月10日(火)、9月21日(火)
 総展示点数 約70点

*会期・開館時間等を変更する場合があります。

*展示をご覧になる際には、オンラインによる事前予約(日時指定)をご利用いただくと、ご入館がスムーズです。

●横 浜 開 港 資 料 館 (中 区 日 本 大 通 3)

江戸時代～大正・昭和初期の横浜に関する資料を約27万点所蔵し展示等で公開しています。この地は約160年前に日米和親条約が結ばれた由緒ある地で、中庭には「ペリー提督横浜上陸図」に描かれている木が先祖であるといわれる、「たまくすの木」があります。



【展示の見どころと主な展示資料】

イギリス人がみた日本の様相と日本人が見たイギリスの姿を貴重な資料から紹介します。

① 日本人絵師がイギリス人を描いた貴重な肉筆画を公開！

江戸時代末期に来日したイギリス人を、日本人絵師が描いた珍しい肉筆画（画家が自筆で描いた絵画）を公開します。いずれもこれまで公開する機会がほとんどなかった、きわめて稀な資料です。



← 測量船マリナー号の艦長と乗組員を描いた肉筆画
嘉永3年(1850) 当館蔵

嘉永2年(1849)に浦賀(横須賀市)に来航しました。イギリス船が沿岸の水深測量をおこなったことは幕府に衝撃をあたえましたが、庶民は外国人に近付いて、服装などを詳細にスケッチしていました。開港前の外国人を描いた絵画はめずらしいものです。

イギリス公使館東禅寺を襲った水戸浪士と、外国人を描いた掛軸 →

「贈正五位古川忠興東禅寺襲之図画」 当館蔵

イギリス公使館が置かれていた江戸の東禅寺(港区高輪)を、水戸浪士が文久元年(1861)に襲撃しました。このときの様子を描いた貴重な掛軸です。古川忠興(主馬之介)は東禅寺を襲撃した浪士の一人で、東禅寺で闘死しました。



②イギリスに残されていた知られざる歴史資料を初公開！

元治元年12月28日(1865年1月25日)に横浜に着任したイギリス外交官・法律家のヒラム・ショー・ウィルキンソンの資料が北アイルランド公文書館に残されていたことが、本展の準備調査で明らかになりました。今回は、ウィルキンソンが日本への船旅で参照した「タイムテーブル」(P&O汽船)や、明治時代はじめの日本各地を写した古写真等を初公開します(パネル展示)。



↑

伊勢山から眺めた横浜市街 1870年代 北アイルランド公文書館寄託

The Deputy Keeper of the Records, Public Record Office of Northern Ireland D1292/P/2

【調査研究員による関連講座】

「開国前後の日本とイギリス」 令和3年8月21日(土) 14:00~15:30
事前申込制(申込多数の場合は抽選)。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

お問合せ先

横浜開港資料館 副館長：青木祐介 調査研究員：吉崎雅規 広報担当：久保暢子
Tel.045-201-2100 *画像データをご要望の場合は広報担当までご連絡ください。